

# JCSS校正証明書について

## 質量校正の不確かさ

質量測定に影響を与える全ての要因（測定方法、参照分銅、空気の浮力補正、質量比較器など）を数値化して合成したものが不確かさです。このようにして得られた不確かさを「合成標準不確かさ」と言います。校正証明書に記載されている不確かさは「合成標準不確かさ」に包含係数 ( $k=2$ ) を乗じて「拡張不確かさ」で表されます。この「拡張不確かさ」の範囲内に「真の値」が約 95% の信頼の水準で含まれます。

## 適合性の評価

質量の校正結果が規格に適合しているか評価  
適合性評価の基準は JIS B 7609:2008 6.2 項, 6.3 項次の式を同時に満たしているか評価を行います。

6.2 項

| 拡張不確かさ |  $\leq 1/3 \times$  | 最大許容誤差 |

6.3 項

| 協定質量の偏差 | + | 拡張不確かさ |  $\leq$  | 最大許容誤差 |

## 協定質量の変化

校正証明書抜粋 (2 項または 3 項)

校正結果

公称値	識別記号	印	協定質量	拡張不確かさ
20 kg	A	/	20 kg + 0.10 g	$\pm 0.20$ g
20 kg	B		20 kg + 0.90 g	$\pm 0.20$ g
20 kg	C		20 kg - 0.90 g	$\pm 0.20$ g

注釈 1) 協定質量は温度 20℃、空気密度 1.2kg/m<sup>3</sup> の環境においてつり合う密度 8000kg/m<sup>3</sup> の標準分銅の質量である。

2) 拡張不確かさは信頼の水準約 95% に相当し、包含係数は  $k=2$  である。

適合性評価

協定質量の精度等級 : M1

公称値	識別記号	印	協定質量の偏差	拡張不確かさ	最大許容誤差	評価
20 kg	A	/	+ 0.10 g	$\pm 0.20$ g	$\pm 1.00$ g	適合
20 kg	B		+ 0.90 g	$\pm 0.20$ g	$\pm 1.00$ g	不適合
20 kg	C		- 0.90 g	$\pm 0.20$ g	$\pm 1.00$ g	不適合

適合性評価について

ランク 1', 2', 3' (おもり) 及び精密分銅は適合性評価を行いません。

過去に当社で同じ分銅の校正を実施された場合は、参考資料として協定質量の変化が一目でわかる校正履歴書が添付しています。この協定質量の変化を参考にして、お客様の管理値から外れた場合のリスクを含めて校正周期をご検討下さい。



校正履歴 協定質量の変化

公称値	20 kg	識別記号	B
回数	協定質量の偏差	校正証明書番号	発行年月日
1	+ 0.10 g	0999999	2009年1月1日
2	- 0.10 g	1299999	2012年1月1日
3	+ 0.00 g	1599999	2015年1月1日
4	+ 0.10 g	1899999	2018年1月1日
5	+ 0.90 g	2199999	2021年1月1日

公称値	20 kg	識別記号	C
回数	協定質量の偏差	校正証明書番号	発行年月日
1	- 0.10 g	0999999	2009年1月1日
2	- 0.30 g	1299999	2012年1月1日
3	- 0.50 g	1599999	2015年1月1日
4	- 0.70 g	1899999	2018年1月1日
5	- 0.90 g	2199999	2021年1月1日

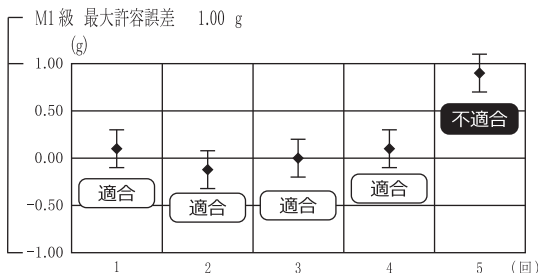
校正履歴について

ランク 1', 2', 3' (おもり) には校正履歴が添付されません。精密分銅については検定公差 (JIS B 7611-3) のグラフ幅となります。

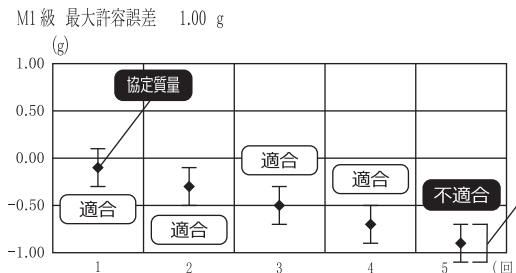
不適合評価について

不適合の記載のある校正証明書発行日から一ヶ月以内に同質量、同精度等級で新規購入して頂いた場合は、その校正費用を弊社にて負担するサービスを実施しています。質量調整が可能なものに関しては別途料金で調整させていただきます。

サビ、異物の付着などによる質量の増加が考えられる。



長年の使用で摩耗による質量の減少が考えられる。



拡張不確かさ

この「拡張不確かさ」の範囲内に真の値が約 95% の信頼の水準で含まれます。